【高等学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立佐賀北高等学校（全日制）

1　前年度 評価結果の概要	・教員間で情報を共有したり、方策を議論したりすることで、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようになった。 ・北高ルーブリック評価表を活用し、生徒が自分自身について振り返りをするという試みを実践し、全体的には生徒の自己肯定感の高まりを確認することができた。 ・教員間の連携を図り、効率的に業務を遂行することができた。今後も分掌・学年と連携を強化していきたい。
2　学校教育目標	・自主・自律を重んじ、生徒の可能性を認め、主体性を伸ばす。 ・生徒が互いを尊重しあい、多様性を認め、他者と協働しながら、社会的変化を乗り越えられる逞しさを養う。 ・生徒一人一人が自己の資質・能力を伸ばし、豊かな人生を切り拓き、より良い社会を実現していくために必要な人間力を育成する。
3　本年度の重点目標	・主体的、対話的で深い学びの実施による「確かな学力」の向上 ・自己を分析し、自身の適性や将来の姿を見据えた主体的な進路選択とその実現 ・他者への共感、多様性の尊重を目指した寛容な心、思いやりの心の醸成

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●授業のさまざまな場面で、主体的・計画的に学習活動に取り組む姿勢を養う。	○「授業で、主体的に学習することができるようになった」と答えた生徒が70%以上。 ○「学習時間を確保し、予習や復習などを計画を立てて勉強することができた」と答えた生徒が70%以上。	・全国模試を通して成績を測定する一方で、指導のポイントを明確にする取組を行う。 ・定期的に志望校調査を行い、進路検討会でその目標を達成するための手だてを明確にする。 ・一定の自宅学習時間を確保させるとともに学習時間確保のためのタイムマネジメントを行わ	B	・定期的に模擬試験を実施している。また、成績については、分布表を作成して回覧することを通して、指導のポイントを明確にしている。 ・定期的に進路検討会を実施し、生徒の学力を向上させるための方策を議論している。 ・定期考査2週間前から1週間、学習時間調査を実施している。その結果をもとに、各学年で分析して、学習時間の確保に向けた指導を継続的に行っている。	B	・模擬試験や検討会を定期的に実施し、生徒の学力分析や、学力向上の方策を議論し取り組んだ。その結果、「授業で、主体的に学習することができるようになった」と答えた生徒が約70%になり、目標通りに達成できた。 ・定期考査2週間前から学習時間調査を実施、その結果をもとに、各学年で分析して、学習時間の確保に向けた指導を行った。その結果、「学習時間を確保し、予習や復習などを計画を立てて勉強することができた」と答えた生徒が約70%になり、目標通りに達成できた。	A	・主体的に学習できる生徒が増えており、また今年度の大学入試合格状況を鑑みると、取り組み方がうまくいっていると評価できる。	進路指導部 各教科
	◎他者の考えや意見を聞く機会を設定し、生徒に物事についての多様な考えを身につけさせる。	◎「総合的な探究の時間や各教科で、協働的な活動の取組ができた。」と答えた生徒が70%以上	・総合的な探究の時間を中心に、協働的な取組を積極的に行い、話す能力、聞く能力を育む。 ・学期末にアンケート調査を実施し、協働的な活動によって得られた知識や新たに見つかった課題などに気づかせる。	A	・担任や部活動顧問を中心にして、悩みを抱えている生徒に関する聞き取りを詳細に行った。 ・総合的な探究の時間の趣旨を踏まえて、グループ活動を通して、協働的な取組みをして、話す能力、聞く能力の育成に励んでいる。 ・1学期末のアンケートでは、90%以上の生徒が多様な考え方や見方を身につけることができている。	A	・総合的な探究の時間の趣旨を踏まえて、グループ活動を通して、協働的な取り組みをして、話す・聞く能力の育成に励むことができた。その結果、「総合的な探究の時間や各教科で、協働的な活動の取組ができた。」と答えた生徒が約90%になり、目標を大きく超えて達成できた。 ・総合的な探究の時間を通して、グループ活動を行い、協働的な活動を取り入れた結果、2学期末のアンケートでは、94%の生徒が多様な考え方や見方を身につけることができたと答えた。	A	・協同的に活動できることは、社会人としても大切なことであるため、来年度以降も継続してほしい。	進路指導部 各学年
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎7月と12月に行う「北高ルーブリック」で、生徒の成長がみられる。 ○「学校は、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動をおこなっている」と答えた生徒80%以上 ○部活動加入率：90%以上	・北高ルーブリックを活用し、生徒の自己の成長を促す。 ・学校行事、部活動、生徒会活動、校外活動等への積極的参加を促進し、他者と協力して共通の目標を達成する力を養う。 ・SOSの出し方教育を行う。 ・スクールカウンセラーによる講話を行う。 ・生徒や保護者の円滑なカウンセリング利用 ・講演会や国際交流を推進し、多様な価値観に触れる機会を設ける。 ・地歴公民、その他の教科における人権教育の実施を呼びかける。	A	・13項目中11項目で自己評価が向上した。特にキャリアアップ力と地域貢献力が伸びた。逆にストレス対応能力と協動的能力がやや下降した。 ・「学校は、自他の声明を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など豊かな心を身につける教育活動を行っている」と答えた生徒が91%であった。 ・開校60周年記念式典において、本校卒業生の百崎克敏先生から「私の野球」という演題で講演をいただいた。甲子園優勝を振り返りながら生徒の心へ響く講演会となった。 ・国際交流ではイレンズフォールズ市教育訪問団の校内募集を行っている。今後、希望者から選考を行い訪問団を編成する。 ・年度当初の部活動加入率は92.4%と全校生徒のほとんどが部活動に加入し、日々の授業と並行して部活動に取り組んでいる。課題としては現状を確認し、各部で継続した活動を行えている評価していく必要がある。	A	・7月に全校生徒対象のSOSの出し方教育講演会を実施。その影響もあり、今年度はスクールカウンセラーへの相談件数が昨年と比べて大幅に増えた。 ・全校生徒の9割以上が部活動に加入し、日々の授業だけでなく、部活動を通して規範意識や主体的に物事に取り組む力を育んだ。 ・開校60周年記念行事を通して、生徒は北高生としてのプライドを築くことができた。 ・国際交流事業への参加生徒が決定し、グローバルな視点を育成することができた。	A	・教育講演会やスクールカウンセラーの活用などにより、他者への思いやりや社会性・倫理観などを身に付けることができていると評価できる。	教務部 生徒指導部(生徒会) 教育相談部 総務部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ重大事案件数：　0件 ○「いじめ」防止等について組織的に対応ができていると回答した教職員の割合が70%以上	・年2回のアンケート調査の実施 ・アンケート後1週間以内に集計の完成と情報の共有を行う ・覚知の際に各分掌で協力し早期の対応を行う。 ・生徒総会においていじめ撲滅宣言を行い、生徒間での意識の共有を図る。	B	・いじめアンケート調査等をもとにして気になる事案については生徒指導、学年、担任、教育相談、部活動顧問、管理職と早期の対応を行っている。現在、解決している事案については今後の動向を見守っている状況である。	A	・生徒の言動やいじめアンケートに注視しながら、悩みを抱えている生徒一人一人に対して、学年、部活顧問や教育相談、管理職と連携をとりながら対応することができた。 ・2学期のアンケートで、学校がいじめの早期発見、早期対応体制の充実に取り組んでいると肯定的に評価した保護者・生徒はともに90パーセントを超えていた。今後の課題として保護者にも学校としての取り組みを浸透させ、安心していただけるようにしたい。	A	・問題を抱えた生徒一人一人に対して、適切に対応できていると考えられる。今後も早期の発見・適切な対応を継続してほしい。	生徒指導部 （学年主任）
	○生徒が自主的・自律的に行動でき、自らの行動に責任を負うことができる指導	○「学校は、生徒が自主的・自律的に行動でき、自らの行動に責任を負うことができる指導を行っていると思う」と答えた職員が70%以上 ○「北高生は、生徒が自主的・自律的に行動できている」と答えた生徒70%以上	・服装や生活について自ら考えさせる指導を行う。 ・校則について生徒会主体で考え遵守する指導を行う。 ・自転車マナーについての指導を行う ・全職員および生徒会と連携し自律した生活を図る。	A	・生徒会の生徒を中心に現在の学校生活でよりよく改善が必要なことについては生徒指導、生徒会担当の職員と話し合いを持っている。生徒からより活発な意見が出るような雰囲気作りを心がけている。	A	・生徒会の生徒を中心によりよい学校生活を送るための取り組みについて前向きな意見、取り組みが行えた。今後もこの雰囲気を継続できればと考える。	A	・生徒会活動を中心に、主体的に活動する機会を与えていることは評価できる。今後も継続してほしい。	生徒指導部
	○興味関心の幅を拡げ教養を深める中で、豊かな心を育む	○「学校は、読書活動の活性化に努めていると思う」と答えた職員が70%以上 ○「私は、本を読んでいると思う」と答えた生徒70%以上	・新着案内などの掲示場所を増やす。 ・朝読書指導などクラスでの活動を増やす。 ・図書紹介のPOP作りをする。 ・文化祭での取り組みを図書委員の主体的なものとする。	B	・毎月新着案内を発行したり季節毎のブックフェアーを行い、生徒のは興味を喚起した。 ・校内読書会では、ブックトークを実施し、積極的な活動を促した。 ・図書委員が図書のPOP作りを行った。 ・昼休みや放課後、3年生を中心に学習室としての利用が増えた。	B	・「読書をしている」と感じている生徒は半数に届かなかったが、前回調査と比較すると微増した。本に興味を持たせる取り組みを持続したい。 ・図書室を学習室として活用する生徒が増えた。	B	・今年度はクラス読書会を工夫するなど、新しい取り組みをされているようですので、今後も継続して取り組んでいただきい。	図書部
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・保護者への個別の連絡	A	・7月と11月に実施した食事・健康に関する調査において、「健康でいるために食事は大切」と考える生徒は99%以上であった。 ・5月の保健だよりで朝食について取り上げた。	A	・11月の2年生対象の「食事・健康に関する意識調査」において「健康に良い食事をしている生徒」が7月実施の73.9%から85.6%に上昇しており、目標の80%を達成することができた。	A	・食事の大切さについては、学校だけでなく家庭でも協力して取り組みたい。	保健・厚生部
	○心身の健康問題に対する自己管理能力の育成	○健康診断（歯科検診）後の受診率を前年度より5%向上させる ○睡眠時間を十分に取れていると考える生徒60%以上	・睡眠に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・生徒への全体指導と個別指導	B	・歯科健診後の受診率は36.7%で前年度より7.0%向上した。 ・12月と冬休みの保健だよりで睡眠について取り上げ、12月に実施した睡眠に関する意識調査では、「良い睡眠がとれているため睡眠状況はこのままでよい」と考える生徒は49.7%であった。	A	・1月に1年生の未受診者を対象に歯科保健指導を実施し、「歯科医院への受診を考えていない」と回答した13名のうち9名が保健指導後に「受診しようと思う」と回答した。 ・睡眠不足から体調不良を訴える生徒も少なくない。次年度は朝補習がなくなることでの睡眠状況の変化を見ていきたい。	A	・睡眠不足についてはスマホの長時間使用など様々な要因があり、学校では「保健だより」を活用した情報発信なさっているようですので、今後も継続していただきたい。	保健・厚生部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●「定時退勤推進日等の設定、積極的な休暇取得の奨励などによって、長時間労働の縮減・解消に対する意識が高まったと思う」と答えた職員が80%以上	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日、年休取得推進期間の設定 ・部活動休養日の設定 ・PCを使ってのアンケートが可能なものは利用する。	A	・定時退勤日として毎週金曜日を設定した。 ・学校閉庁日として、夏季休業中に5日を設定した。 ・年間を通じて年休取得や振休取得を推進した。 ・部活動休養日を年間で、平日52日以上、土日祝日に52日以上を設定して活動中である。 ・Classiを使用したアンケート調査等が進められている。	A	・定時退勤日については、課業中は十分な実施とはならなかったが、長期休業中においてはおおむね実施できた。 ・年休取得や振休取得について推進し、特に長期休業中を中心に、取得しやすい雰囲気を醸成できた。 ・部活動の休養日については、概ね目標を達成することができいるが、いくつかの部活動では目標まで届かなかった。	A	・業務改善にしっかりと取り組まれている。労働条件などで教員への志望が減少していると聞くが、今後も働き方改革を推進してほしい。	教頭
	○教職員の連携促進	○「職員間での意見交換や連携しやすい雰囲気作りができていると思う」と答えた職員が70%以上。	・現状に合った取組を考えながら、行事・企画を精選する。 ・業務の進捗状況の共有に努め、職員間のフォロー体制を強化する。	A	・昨年度に続き、他分掌と連携しながら行事の精選を行っている。 ・行事を精選したことで、時間的な余裕が生まれ、学年や進路などが中心となって、見通しをもった取組ができている。 ・運営委員会をはじめ、学年会や校務分掌会で情報の共有に努めている。さらに横のつながりを強化する。	A	・他の分掌と連携しながら行事の精選を行うことができた。社会状況がコロナ前に戻り、今後ももとには戻さず行事の精選を進めていく。 ・運営委員会をはじめ、学年会や校務分掌会で情報の共有に努めた。校務分掌間での連携を強化していきたい。	A	・教員間の連携を図り、今後も引き続き業務の効率化に努めてほしい。	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○ICTの活用	○ICTを活用した情報収集や情報発信	・「学校は適切にICTを活用して情報を発信していると思う」と答えた職員・生徒・保護者が70%以上	・ホームページ上の学校に関する情報を整理し随時更新する ・中学校説明会用の学校紹介資料を作成する。 ・保護者のアンケートでICTを利用して業務削減を行う。	A	・「ICTを活用して情報を発信していると思う」と答えた職員・生徒が約80%で概ね達成できた。 ・中学校での説明会はパワーポイントを活用し、本校の特徴を紹介することができた。	A	・「ICTを活用して情報を発信していると思う」と答えた職員・生徒が約80%で概ね達成できた。 ・一般選抜の倍率は1.44倍で、高倍率であった。	A	・緊急メールやホームページなどの情報発信については概ね良く活用できていると考えられるため、今後も継続してほしい。	総務部 主幹
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上	・地域の幼稚園・小学校との交流やボランティア活動に積極的に取り組む。	A	・中学生に本校を勧める割合が生徒で92%、職員95%であった。また地域の小学生との交流も活発に行うことができた。	A	・中学生に本校を勧める割合が生徒で92%、職員95%であった。また地域の小学生との交流も活発に行うことができた。	A	・学習、部活動ともに今後とも生徒の活躍を期待したい。	主幹

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育　★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

5　総合評価・ 次年度への展望	・本年度の重点目標を達成するために、教職員一人ひとりが意思疎通を図りながら、計画的・組織的に教育活動に努め、さらなる学校活性化のための方策について検討することができた。 ・北高ルーブリック評価表を活用し、生徒が自分自身について振り返りをするという試みを実践し、全体的には生徒の自己有用感・自己肯定感の高まりを確認することができた。 ・安全・安心に学校生活を送ることができるよう常に情報共有できる体制を備えることができた。 ・本校の更なる躍進を目指し、生徒・保護者・地域の期待に応えるために、必要な情報が共有できる体制を整えていく。